

景況調査

令和2年1月～令和2年3月期



昨年の同期との比較						
	業況		売上高		採算(経常利益)	
	1～3月期動向		1～3月期動向		1～3月期動向	
全体	▲ 52.3		▲ 42.2		▲ 51.1	
小売業	▲ 76.9		▲ 61.5		▲ 76.9	
製造業	▲ 70.0		▲ 50.0		▲ 70.0	
建設業	0.0		25.0		0.0	
サービス業	▲ 50.0		▲ 60.0		▲ 50.0	
卸売業	▲ 33.3		▲ 50.0		▲ 25.0	

DI 指数	
30 以上	
10 以上 30 未満	
▲ 10 以上 10 未満	
▲ 30 以上 ▲ 10 未満	
▲ 30 未満	

※ 調査の結果を示す指標としてDI指数 (Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値)を用いた

1月～3月期の調査結果を見ると、全体のDIは前回調査より大幅に下がり、全ての指標で▲30未満の大雨となった。業種別に見ると、建設業は業況が0.0、売上高は25.0、採算が0.0と他の4業種とは全く異なる結果となった。令和2年4月から6月見通しは全ての業種、全ての指標で大雨が予想されており、かなり厳しい状況が続くと思われる。

<自由意見>

- ・コロナ終息後の需要回復が見込めるのか、非常に不安であるが、今は借入で凌いで、とりあえず事業継続を考えるしかない
- ・自粛要請の対応が難しい
- ・緊急事態宣言の全国拡大により、5分の1ルール等出勤日数の削減やテレワーク等が業種によっては難題と考える
- ・従業員だけでなく、地域を挙げて感染拡大防止策を徹底し、事業活動を継続させたい (一部抜粋)

